

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】令和 7 年 3 月 18 日(2025.3.18)

【公開番号】特開 2023-133094(P2023-133094A)
【公開日】令和 5 年 9 月 22 日(2023.9.22)
【年通号数】公開公報(特許)2023-179
【出願番号】特願 2022-170840(P2022-170840)
【国際特許分類】

A 6 3 H 3/36(2006.01)

10

【F I】

A 6 3 H 3/36 D
A 6 3 H 3/36 C

【手続補正書】

【提出日】令和 7 年 3 月 7 日(2025.3.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

20

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

模型玩具であって、

基部となる第 1 パーツと、

一方に前記第 1 パーツに形成された接続部に接続される第 1 連結部と、他方に他のパーツに連結される第 2 連結部とを含む第 2 パーツと、

前記第 1 パーツに前記第 2 パーツの前記第 1 連結部が接続された状態で、それぞれに形成された第 3 連結部によって前記第 1 連結部を挟持する 2 つの第 3 パーツと、

前記第 1 パーツ及び前記第 2 パーツを前記 2 つの第 3 パーツで挟持した状態で、これらのパーツ群を挟持する第 4 パーツ及び第 5 パーツと

30

を備えることを特徴とする模型玩具。

【請求項 2】

前記 2 つの第 3 パーツが前記第 1 パーツ及び前記第 2 パーツを挟持する方向と、前記第 4 パーツ及び前記第 5 パーツが前記パーツ群を挟持する方向とは互いに異なることを特徴とする請求項 1 に記載の模型玩具。

【請求項 3】

前記第 1 連結部の両側には、2 つの前記第 3 パーツのそれぞれの前記第 3 連結部の一部を受け入れる凹部が形成されることを特徴とする請求項 1 に記載の模型玩具。

【請求項 4】

40

前記第 3 連結部は球形状で形成され、

前記凹部は球形状の前記第 3 連結部の外形に合わせて形成されることを特徴とする請求項 3 に記載の模型玩具。

【請求項 5】

前記第 1 連結部は、リング形状で形成され、

前記第 2 連結部は球形状で形成されることを特徴とする請求項 1 乃至 4 の何れか 1 項に記載の模型玩具。

【請求項 6】

前記第 1 パーツ及び前記第 2 パーツによって前記模型玩具の胸関節が形成され、

前記第 2 パーツの前記第 2 連結部は、前記模型玩具の腹部を構成するパーツに接続され

50

ることを特徴とする請求項 5 に記載の模型玩具。

【請求項 7】

2 つの前記第 3 パーツは前記模型玩具の肩関節を形成することを特徴とする請求項 1 乃至 6 の何れか 1 項に記載の模型玩具。

【請求項 8】

前記第 1 パーツの上部に形成された凹部に接続される球形状の連結部を有する第 6 パーツをさらに備え、

前記第 1 パーツ及び前記第 6 パーツによって前記模型玩具の首関節が形成されることを特徴とする請求項 1 乃至 6 の何れか 1 項に記載の模型玩具。

【請求項 9】

可動構造であって、

基部となる第 1 パーツと、

一方に前記第 1 パーツに形成された接続部に接続される第 1 連結部と、他方に他のパーツに連結される第 2 連結部とを含む第 2 パーツと、

前記第 1 パーツに前記第 2 パーツの前記第 1 連結部が接続された状態で、それぞれに形成された第 3 連結部によって前記第 1 連結部を挟持する 2 つの第 3 パーツと、

前記第 1 パーツ及び前記第 2 パーツを前記 2 つの第 3 パーツで挟持した状態で、これらのパーツ群を挟持する第 4 パーツ及び第 5 パーツと
を備えることを特徴とする可動構造。

【請求項 10】

前記可動構造は、模型玩具の少なくとも肩関節及び胸関節を形成することを特徴とする請求項 9 に記載の可動構造。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

本発明は、例えば、模型玩具であって、基部となる第 1 パーツと、一方に前記第 1 パーツに形成された接続部に接続される第 1 連結部と、他方に他のパーツに連結される第 2 連結部とを含む第 2 パーツと、前記第 1 パーツに前記第 2 パーツの前記第 1 連結部が接続された状態で、それぞれに形成された第 3 連結部によって前記第 1 連結部を挟持する 2 つの第 3 パーツとを備えることを特徴とする。

また、本発明は、例えば、模型玩具であって、基部となる第 1 パーツと、一方に前記第 1 パーツに形成された接続部に接続される第 1 連結部と、他方に他のパーツに連結される第 2 連結部とを含む第 2 パーツと、前記第 1 パーツに前記第 2 パーツの前記第 1 連結部が接続された状態で、それぞれに形成された第 3 連結部によって前記第 1 連結部を挟持する 2 つの第 3 パーツと、前記第 1 パーツ及び前記第 2 パーツを前記 2 つの第 3 パーツで挟持した状態で、これらのパーツ群を挟持する第 4 パーツ及び第 5 パーツとを備えることを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

また、本発明は、例えば、可動構造であって、基部となる第 1 パーツと、一方に前記第 1 パーツに形成された接続部に接続される第 1 連結部と、他方に他のパーツに連結される第 2 連結部とを含む第 2 パーツと、前記第 1 パーツに前記第 2 パーツの前記第 1 連結部が接続された状態で、それぞれに形成された第 3 連結部によって前記第 1 連結部を挟持する

2つの第3パーツとを備えることを特徴とする。

また、本発明は、例えば、可動構造であって、基部となる第1パーツと、一方に前記第1パーツに形成された接続部に接続される第1連結部と、他方に他のパーツに連結される第2連結部とを含む第2パーツと、前記第1パーツに前記第2パーツの前記第1連結部が接続された状態で、それぞれに形成された第3連結部によって前記第1連結部を挟持する2つの第3パーツと、前記第1パーツ及び前記第2パーツを前記2つの第3パーツで挟持した状態で、これらのパーツ群を挟持する第4パーツ及び第5パーツとを備えることを特徴とする。

10

20

30

40

50